



2018年3月期決算 補足説明資料

2018年 5月14日（月）

ウェーブロックホールディングス株式会社
証券コード：7940
（東証一部）

2018年3月期 決算のポイント

■ 売上高 27,702百万円（前年比 3.0%増）

- ・ 前年度に引き続き、過去最高を更新
- ・ インテリア事業の販売好調が売上増に寄与（前年比8.9%増）
- ・ アドバンステクノロジー事業においては、金属調加飾フィルム分野が、インド・東南アジア案件の伸張や、国内家電向け新規案件等により、モデルエンドを迎えつつある国内既存案件の減少分をカバー

■ 営業利益 1,834百万円（前年比 34.9%増）

- ・ 過去最高の営業利益を達成
- ・ インテリア事業において、販売好調と前年度までの設備投資効果が相まって生産性アップ
また、継続的なコスト削減努力等により、利益大幅増を実現

2019年3月期 業績の見通し

■ 売上高 28,500百万円（前年比 2.9%増/797百万円増）

■ 営業利益 1,840百万円（前年比 0.3%増/ 5百万円増）

- ・ インテリア事業の見本帳増点が通年寄与し、売上高過去最高を更新の見込み
- ・ 不透明な市場環境のもと、原材料価格や各種コストの上昇を折り込み、売価への転嫁には時間を要すると想定
- ・ 海外展開、新分野の取り組み、新製品の上市等を積極的に推進するも、今期は費用先行

- 売上高は、前年比3.0%増となり前年度に引き続き**過去最高を更新**
インテリア、アドバンステクノロジーが牽引
- 営業利益は、18億円台に。前年比474百万円増(34.9%増)となり**過去最高**
インテリアの増収効果、アドバンステクノロジーにおける利益率の高い製品へのシフトと生産の安定化、および、編織での原価改善効果により前年比大幅増益
- 当期純利益は、15億円台と**過去最高**

(単位：百万円)

	2017年3月期 (実績)	2018年3月期 (実績)	前年比 増減	前年比 増減率	業績予想 (10/31公表)	予想比
売上高	26,886	27,702	+815	+3.0%	28,100	△1.4%
営業利益	1,359	1,834	+474	+34.9%	1,800	+1.9%
経常利益	1,696	2,144	+448	+26.4%	2,170	△1.2%
親会社株主に帰属する 当期純利益	1,107	1,594	+487	+44.0%	1,600	△0.3%
1株あたり 当期純利益※	106.19	161.52			162.25	

※：発行済株式総数から自己株式等を控除した期中平均株式数により計算しています。期中平均株式数は、2017年3月期は10,434,087株、2018年3月期は9,875,128株です。

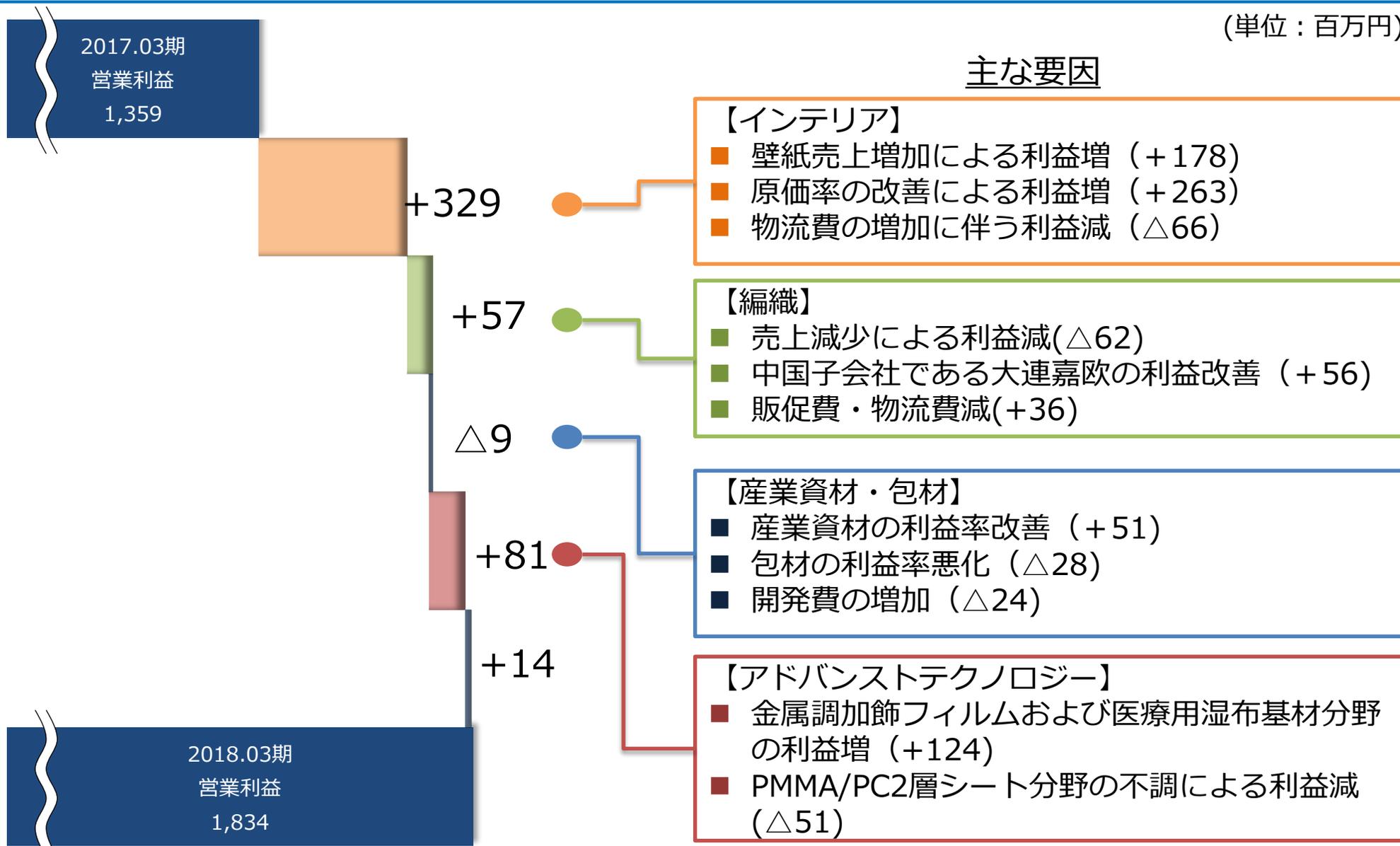
セグメント別 売上高・営業利益

(単位：百万円)

売上高	2017年3月期	2018年3月期	前年比 増減	前年比 増減率	業績予想 (10/31公表)	予想比
	インテリア	8,290	9,029	+738	+8.9%	9,000
編織	8,374	8,209	△ 165	△2.0%	8,350	△1.7%
産業資材・包材	9,103	9,089	△ 13	△0.2%	9,600	△5.3%
アドバンステクノロジー	3,341	3,436	+94	+2.8%	3,600	△4.6%
その他	△ 2,224	△2,062		—	△ 2,450	
合計	26,886	27,702	+815	+3.0%	28,100	△1.4%
営業利益	2017年3月期	2018年3月期	前年比 増減	前年比 増減率	業績予想 (10/31公表)	予想比
	インテリア	533	863	+329	+61.7%	740
編織	664	722	+57	+8.6%	660	+9.4%
産業資材・包材	315	306	△ 9	△2.9%	340	△9.7%
アドバンステクノロジー	213	294	+81	+38.3%	380	△22.5%
その他	△ 367	△ 352		—	△ 320	
合計	1,359	1,834	+474	+34.9%	1,800	+1.9%

営業利益増減要因（前年比）

(単位：百万円)



連結貸借対照表

(単位：百万円)

資産	2017年 3月期末	2018年 3月期末	増減	概要
流動資産	15,240	16,724	+1,484	
現預金	2,062	2,489	+427	
営業債権	7,292	7,795	+503	売上の拡大に伴う増加
棚卸資産	5,350	5,938	+587	
その他	535	501	△ 33	
固定資産	13,301	13,051	△ 250	
固定資産	12,115	11,827	△ 287	
その他	1,186	1,223	+37	
資産合計	28,541	29,775	+1,233	
負債・純資産	2017年 3月期末	2018年 3月期末	増減	概要
負債	19,583	19,106	△ 477	
営業負債	3,808	4,390	+582	売上の拡大に伴う増加
有利子負債・社債	10,816	10,115	△ 701	借入金・社債の返済
負ののれん	795	406	△ 388	負ののれんの償却
退職給付引当金	2,070	2,103	+33	
その他	2,092	2,089	△ 3	
純資産	8,957	10,669	+1,711	当期純利益の増加+1,594
株主資本	8,729	10,403	+1,673	ストックオプションの権利行使+174
その他の包括利益他	228	265	+37	配当金△119

キャッシュ・フローの状況

(単位：百万円)  Wavelock Holdings Co., Ltd.

	2017年3月期	2018年3月期	増減	概要
税金等調整前当期純利益	1,566	2,149	+583	
減価償却費	950	1,000	+50	
負ののれん償却額	△ 388	△ 388	-	
減損損失	111	12	△ 99	
退職給付引当金	202	70	△ 131	売上の拡大に伴い運転資金増加
運転資本増減	583	△ 495	△ 1,078	
法人税等支払額	△ 258	△ 403	△ 144	
その他	428	△ 63	△ 491	
営業キャッシュ・フロー	3,195	1,882	△ 1,313	
固定資産の収支	△ 2,219	△ 773	+1,446	インテリア投資一服、各分野での投資
その他	58	△ 2	△ 60	
投資キャッシュ・フロー	△ 2,161	△ 776	+1,384	
フリーキャッシュ・フロー	1,034	1,106	+71	
借入金・社債の収支	△ 67	△ 701	△ 633	借入金・社債の返済進む
自己株式の収支	△ 719	-	+719	
配当金の支払額	-	△ 119	△ 119	
ストックオプションの行使による収入	-	172	+172	
その他	△ 34	△ 41	△ 7	
財務キャッシュ・フロー	△ 822	△ 688	+133	

株主還元

基本方針

- 負ののれん償却額の影響を考慮した配当性向^{※1} が20%から30%となることを目安に
しつつ、安定的な配当を実行・維持すること

※1 負ののれん償却額の影響を考慮した配当性向

$$= \text{配当総額} / (\text{親会社株主に帰属する当期純利益} - \text{負ののれん償却額})$$

2018年3月期 配当の修正

- 第2四半期累計期間における中間配当金を、12円を実施
- 期末配当については、従来公表の13円から業績好調による増配（+1円）と、上場にともなう記念配当（2円）により、16円に修正。結果、年間の配当金は28円
- 年間業績をベースに負ののれん償却額の影響を考慮すると配当性向は23.1%^{※2}

2019年3月期 配当見通し

- 第2四半期末、期末でそれぞれ1株あたり14円（通期28円）
- 負ののれん償却額の影響を考慮すると配当性向は23.1%^{※2}

基準日	1株あたり配当金（円）		
	第2四半期末	期 末	合 計
平成30年3月期 （実績）	12円	16円 （普通配当14円） （記念配当2円）	28円
平成31年3月期 （見通し）	14円	14円	28円

※2 発行済株式総数から自己株式数を控除して計算

2019年3月期 見通し

- 売上高は、前年比2.9%増となり前年度に引き続き**過去最高を更新**の見込み
- 営業利益は、ほぼ前年並みの見込み
 - ✓ ナフサ価格上昇等による原材料費等のコストアップを想定。販売価格への転嫁を図るとともに、コストダウン等で吸収を目指す。効果は下期中心に出てくるものと想定
 - ✓ 中長期的な視野に立った新規事業展開を積極的に推進するも、今期は費用先行。特に上期は負担大

(単位：百万円)

	2018年3月期 (実績)	2019年3月期 (業績予想)	前年同期比 増減	前年同期比 増減率
売上高	27,702	28,500	+797	+2.9%
営業利益	1,834	1,840	+5	+0.3%
経常利益	2,144	2,160	+15	+0.7%
親会社株主に帰属する 当期純利益	1,594	1,600	+5	+0.3%
1株あたり 当期純利益※	161.52	160.32		

※：発行済株式総数から自己株式等を控除した期中平均株式数により計算しています。期中平均株式数は、2018年3月期は9,875,128株、2019年3月期は2018年3月期末と同じ9,980,165株と想定しております。

- 世の中の将来に対する不透明感、言い換えれば将来予測の難しさは益々増大
- 将来に影響を与える要因は多岐に渡り、かつ、複雑に絡み合い、明確な回答を導くことは難しい
- 当社の事業に直接に関わる原油価格や為替も、実需と供給のバランスと言うある意味健全な要因とは異なるものからも大きく影響を受け、将来予測が極めて難しくなっている



この様な不透明な環境が当面続くことを前提に、業績が大きく好転したこの時期こそ、短期的な視点と長期的な視点のバランスを取りつつ、積極的なアクションを取るべき

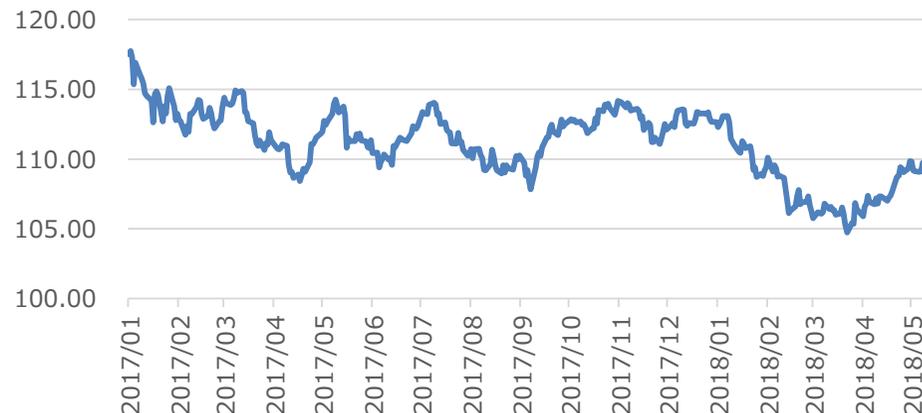
- ① 2018年3月期第4四半期において原油価格上昇 → 原材料費等のコスト上昇へ（一部は既に上昇、これから上昇するものも）
- ② 2019年3月期計画：ナフサ価格、為替とも、ほぼ現時点のレベルとの想定で作成

原油価格推移



— Cushing, OK WTI Spot Price FOB — Europe Brent Spot Price FOB

ドル円



(今期見通しの前提)

- 為替 $\$1 = 112$ 円
 - 原油価格(WTI) $\$65.0$ /バーレル
 - ナフサ価格 48,000円/kL
- (参考)
- 5月7日時点の原油価格(WTI) $\$70.7$ /バーレル
 - 2018年1月～3月平均ナフサ価格※1 47,900円/kL
 - 2018年3月期年間平均ナフサ価格 40,400円/kL

※1：財務省統計国産ナフサ価格

1. これまで実行してきた取り組みの中で、特に成果が出ている取り組みを更に深耕し、アウトプットを最大限にまで伸ばす努力を継続。
 - ✓ 当該取り組みが正しい方向であることは、これまでの成果で検証済み。これを更に掘り下げることの確実性は高い

(インテリア事業)

- (株)サンゲツとのアライアンスを深耕させ、相互にとって更に実りあるものへ(当社の最重要課題)

(産業資材・包材事業/編織事業)

- 従来より取り組んできた「シートとネットの融合・組み合わせ」を加速。そのために、編織事業（ネット事業）を担うダイオ化成(株)の販売部門を、シート・フィルム等を販売する(株)イノベックスへ統合（2019年1月実行を予定）
- 従来以上に多岐に渡る製品・サービスを提供可能な体制にすると共に、両社の異なる販売チャネルの組み合わせが大きなシナジー効果をもたらすことを期待

(アドバンステクノロジー事業)

- グループ内で最も成長を期待される金属調加飾フィルム事業の積極拡大を更に進める
- 特に今期は、従来無かった縦方向（材料やシート加工分野）、横方向（海外展開と新規顧客の開拓）への取り組みを積極的に

2. 現在の事業チャンスに対し、タイムリーな判断で、積極的なアクションを起こすこと

- ✓ 将来予測の難しい不透明な環境下においては、中長期的な試みの成功確率は総じて低下。むしろ、目の前のチャンスに対するリアクションタイムを短くすることで成功確率を上げることが良い結果に結びつきやすい

(アドバンステクノロジー事業)

- 昨年度、シート加工委託先でのトラブルをきっかけに、自らシート加工ビジネスに関わることに
- 半年以上にわたり、当該シート加工メーカー工場内の建屋・設備等を賃借し、当社メンバーが多数常駐し、加工工程の安定化、収率改善対策を実施した結果、品質改善、効率改善が果たされる
- 当該シート加工メーカーの工場から引き上げ、必要設備も購入、移設し、自社で名古屋工場を本年6月から本格稼働の予定
- 加飾シートビジネスにおいては、自動車メーカー、家電メーカー等で採用されるパーツが完成するまでの過程で、材料とシート加工を含めた連携が極めて重要であり、シート加工を通じて得るものは大きい
- ただし、新工場建屋改造、機械設備購入、地元人材育成等の先行投資、及び、名古屋への移転期間中の二重コストが上半期に発生

(産業資材・包材事業)

- 海外企業から技術導入し、新たな取り組みを開始。これまでに約2億円の設備改造を実施
- 従来品とは異なる特徴ある製品の準備中。本年度末までの上市に向けて最大限の努力を継続
- ただし、今期はテスト、試作、改造設備の減価償却等の費用が先行

3. 積極的な海外展開への取り組み

- ✓ 将来が不透明な環境下では、事業ポートフォリオのバランスをより強く意識する必要あり
- ✓ その様な切り口で見た場合、当社の日本国内のビジネスに大きく依存する現状には、本気の対応が必要
- ✓ 会社の安定的・継続的成長には、本格的海外展開は最重要課題の一つ

(産業資材・包材事業)

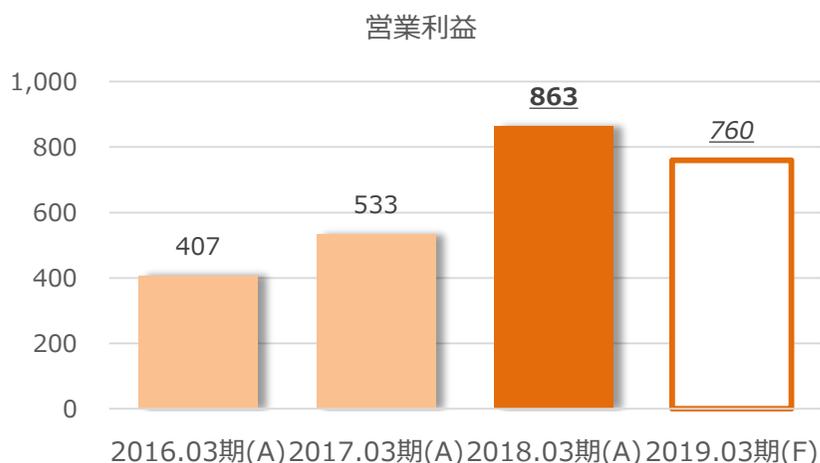
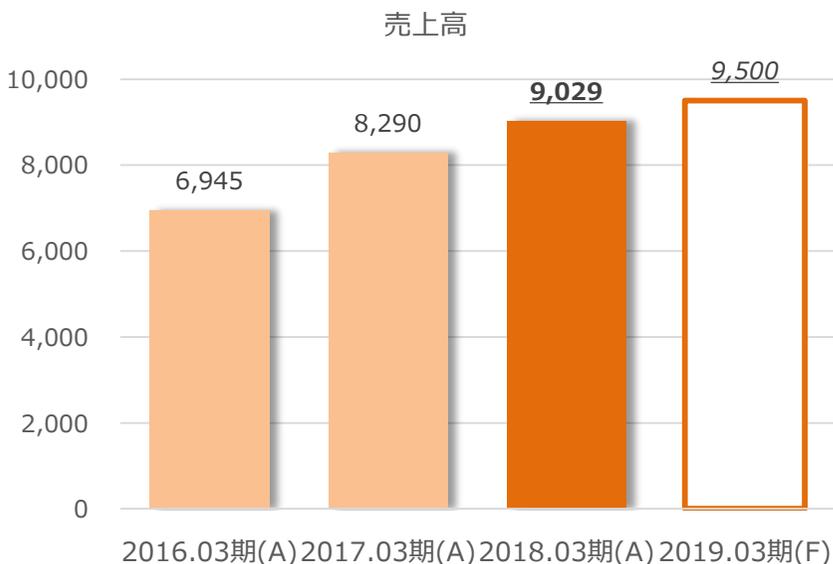
- 昨年度、タイに販売子会社を設立
- 成長著しいASEAN諸国への入り口、重要顧客の主要海外拠点が存在、既存生産委託先が存在
- タイ子会社はアジアでの事業展開の重要なハブに。将来の現地生産も視野に

(アドバンステクノロジー事業)

- 本年6月を目処に米国デトロイトに子会社を設立
- 既に、この分野での経験豊富な現地幹部社員とのコンサルティング契約を締結し、新たな形での営業活動をスタート済み。会社設立後は一気に展開を加速させる計画

セグメント別 概況

(単位：百万円)



トピックス

(2018.03期)

- 売上高は、**前年比+8.9%**
うち、当社品の(株)サンゲツ見本帳への**増点ならびに売れ筋製品採用の増加**により、(株)サンゲツ向けの売上金額は69億円となり、前年比13.1%増
- 2017年2月に完了した一関工場の増設・統合が数量増に対応。**製造効率のアップと原価低減**が寄与し、329百万円の大増益

(2019.03期)

- 前年度更改された見本帳が2年目となり通年寄与
- (株)サンゲツの中級品見本帳が更改予定。増点ならびに売れ筋企画の提案により販売の底上げを狙う
- ナフサ価格上昇による、**原材料費アップ**を想定。数量増と製造効率向上により吸収を図るも売価への転嫁には時間がかかり**減益を想定**

サンゲツ
量産品見本帳



サンゲツ
中級品見本帳



(単位：百万円)

トピックス



(2018.03期)

- 売上高は、**前年比△2.0%**
- 生活資材分野における園芸用品の防虫網、防草シート等が好調に推移も、夏場の天候不順等が影響
- 利益面では、中国の子会社大連嘉欧が増収増益により利益に寄与。販促費や物流費等の削減効果もあり、60百万円の増益

(2019.03期)

- 国内での安定的なシェアを維持
- 中国、東南アジアにおいて農作物生育のパフォーマンス向上や減農薬を実現する防虫資材や遮光資材の展開を図る
- 売上高、営業利益ともに前期並みを想定



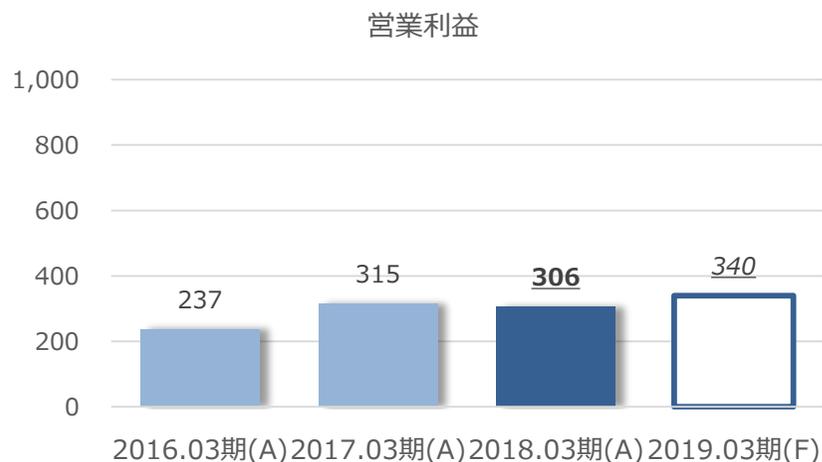
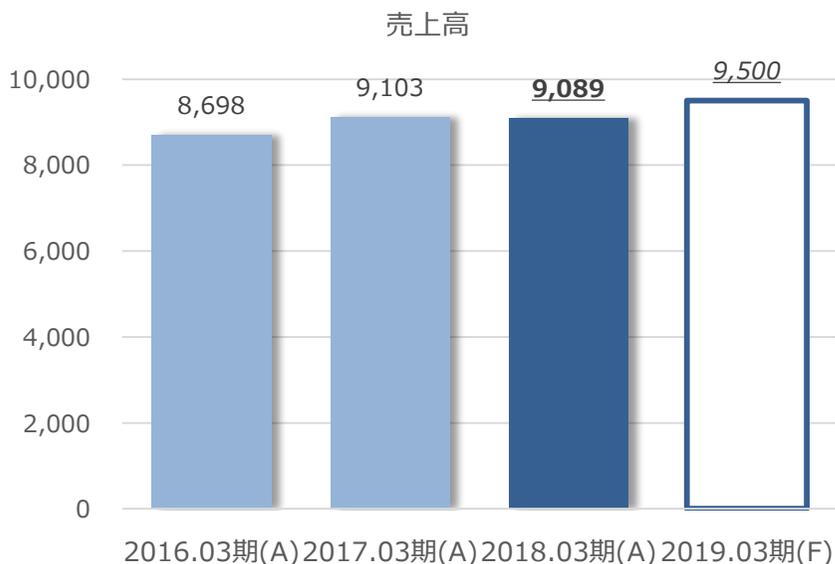
大連嘉欧農業科技



中国における農業試験

(単位：百万円)

トピックス



(2018.03期)

- 売上高は、**前年比△0.2%**
- 産業資材分野において、建設および住宅関連業界での堅調な需要や、防煙垂壁用途の高透明不燃シート、間仕切りシート等が好調に推移し、ほぼ前年並み。生産効率の向上による原価低減が寄与し利益改善
- 包材分野では、コンビニエンスストア向けの食品容器の販売が低調。生産数量減と海外技術導入に伴う設備改造による影響等あり利益率悪化

(2019.03期)

- 産業資材分野では、建築関連市場の底堅い需要および戦略製品の拡販や、設立したタイ海外子会社を起点にASEAN諸国への展開の加速を図る
- 包材分野では、引き続き大手顧客の需要の取込を図りながら、収益性を確認しながら製品の取捨選択を進め利益率改善を目指す
- 海外技術を導入した新製品の開発・上市



大型ショッピングモールの防煙垂れ壁



物流倉庫等のシートシャッター

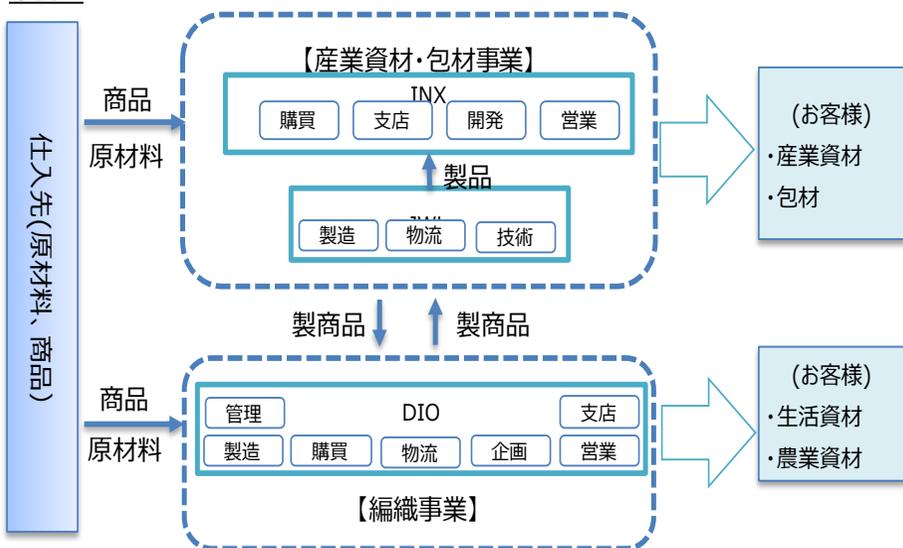


工場内の間仕切りカーテン

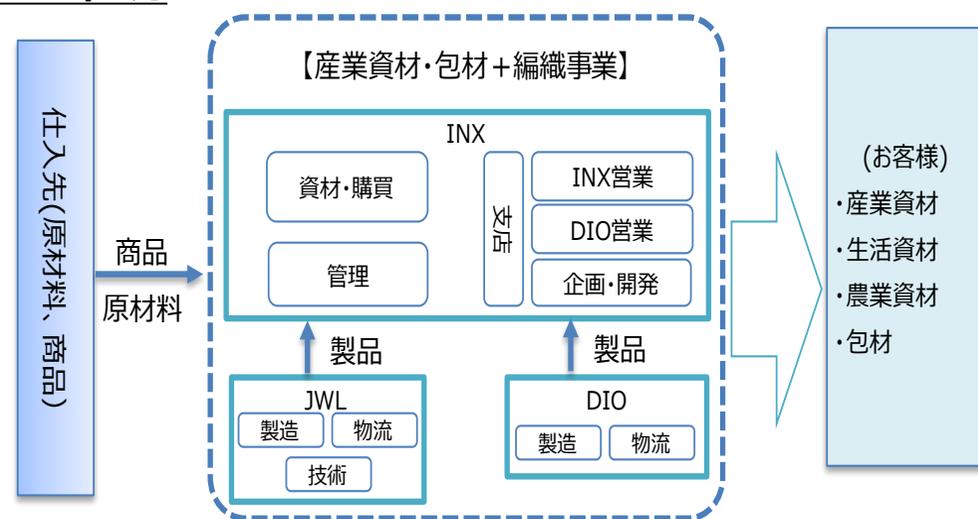
(目的)

- 建設資材、農業資材、産業資材等、同一分野における産業資材・包材事業と編織事業の強みや経営資源の融合
- 製品・商品開発、営業、物流管理など多面的なシナジー効果を醸成し、成熟した国内市場での事業の再構築、ならびに積極的な海外展開
- 2019年1月に新組織での運営開始を目指す

現在



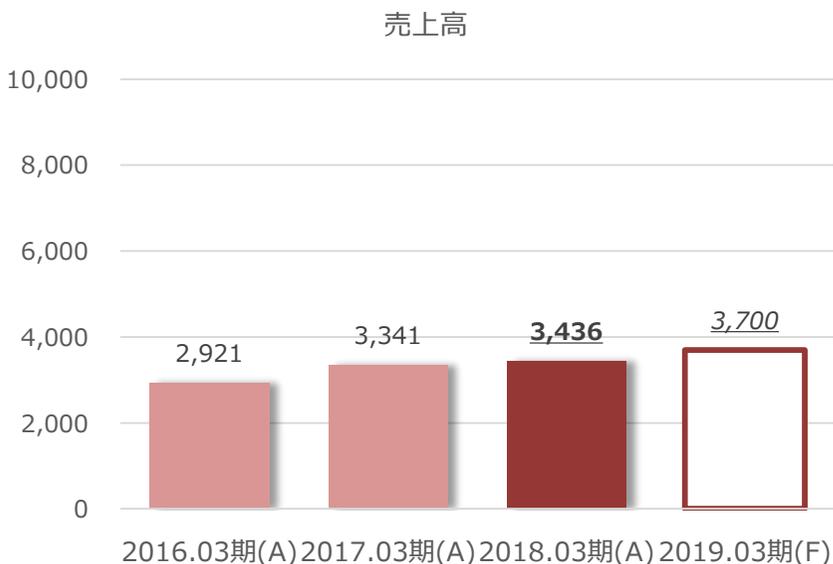
2019年1月



※組織再編のスキーム及び新体制の具体的な内容、再編後のセグメントの変更（名称、数値）等の詳細については別途発表予定

(単位：百万円)

トピックス



(2018.03期)

- 売上高は、**前年比+2.8%**
- 金属調加飾フィルム分野は、インド・東南アジアにおける新規採用や、中国での自動車内装案件等が好調に推移。加えて、北米向けや国内家電向け新規販売により、国内自動車内装案件の早期エンドによる減少分をカバー
- PMMA/PC2層シート分野は、中国での販売不振や設備トラブル等を主因として売上、利益ともに大幅減

(2019.03期)

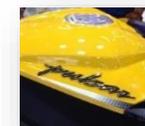
- 金属調加飾フィルム分野は、引き続き国内自動車向けが順次減少となるも、中国、インド、北米等海外向けが伸張。クレームの減少、製造効率の向上による利益率アップを見込む。
- 下流である成形加工も含めた品質安定化と、お客様への提案を強化。
- 北米デトロイトに販売子会社設立。米国での本格的販売をスタート
- PMMA/PC2層シート分野は、中国での大型案件の獲得や車載関連分野の伸張に注力



光透過加飾
(自動車)



ソフトエンブレム
(バイク)



ラベル装飾
(ウイスキー)

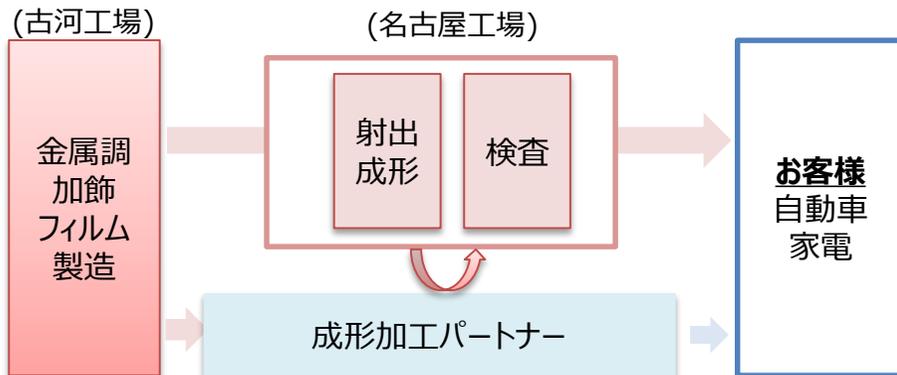
名古屋工場の開設

(目的)

- 当社グループが販売する金属調加飾フィルムは、成形加工の後、自動車の内装品、外装品、家電製品などに利用
- 工場開設により、一部の成形加工および検査工程を社内に取り込み
- フィルムの改良や品質向上、お客様への提案の強化が可能
- 金属調加飾フィルム関連事業の安定と充実を目指す

(名古屋工場の概要)

- ① 所在地：愛知県名古屋市
- ② 建物：賃借物件（2階建て 延床面積208坪）
- ③ 稼動：平成30年6月より
- ④ 事業：各種製品の射出成形、検査およびその関連事業



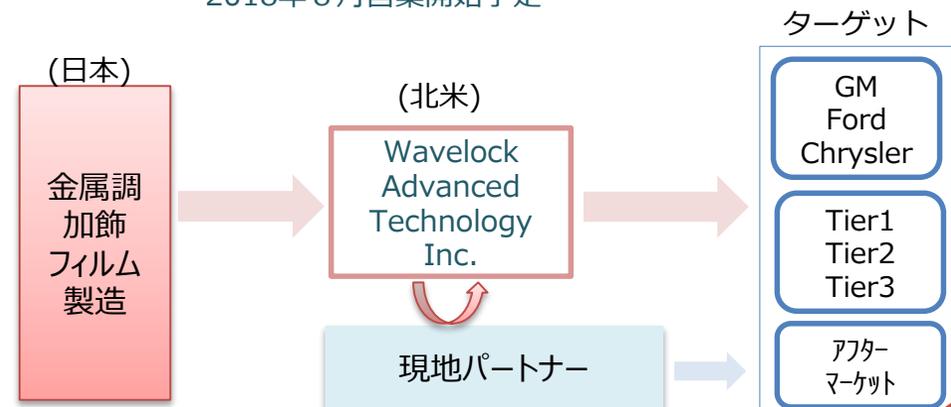
米国子会社の設立

(目的)

- 北米市場は中国に次ぐ世界2番目の新車販売を誇り、フィルム加飾や自動運転の開発にも積極的で、金属調加飾フィルムの重要なターゲット
- 案件のパイプラインも増加、これまでの出張ベースの営業活動から転換し、更に顧客に密着した迅速な営業展開

(設立子会社の概要)

- ① 商号：Wavelock Advanced Technology Inc.
- ② 所在地：アメリカ合衆国ミシガン州デトロイト
- ③ 事業：米国内における合成樹脂や各種材料の輸入、販売
- ④ 資本金：50万USDollar
(株) ウェーブロック・アドバンスド・テクノロジー100%
- ⑤ 設立：2018年6月（予定）
2018年8月営業開始予定



本資料の作成にあたり、当社は当社が入手可能な情報の正確性や完全性に依拠し、前提としていますが、その正確性あるいは完全性について、当社は何ら表明及び保証するものではありません。

また、将来に関する記述が含まれている場合がありますが、実際の業績は様々なリスクや不確定要素に左右され、将来に関する記述に明示又は黙示された予想とは大幅に異なる場合があります。したがって、将来予想に関する記述に全面的に依拠することのないようご注意ください。

本資料及びその記載内容について、当社の書面による事前の同意なしに、第三者が、その他の目的で公開又は利用することはできません。